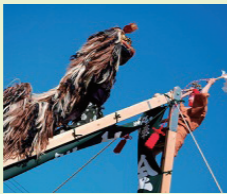


かなたけしし 金竹獅子

金竹の獅子舞は、200年以上前から伝えられてきたふるさとの誇りです。「穀物が豊かに実りますように」「子や孫がたくさん生まれ家が栄えますように」といった願いをこめて獅子舞が行われています。平成23年(2011)2月、市の重要文化財に指定されました。

行った日



かぶとやま 甲山

甲山は、『播磨国風土記』という本に書かれた胃岡のこただと考えられています。また言い伝えによると、「豊富」の地名は、『播磨国風土記』からつけられました。市川沿いの独立した丘で、高さは107.8m、山の頂上には甲八幡神社があります。

行った日



じゅんれいばし 順礼橋の碑

明治17年(1884)につくられました。神谷川の堤防に立っている石碑です。順礼橋は、その当時、廣峯神社から法華山へおまいりする人たちが利用しました。当時としてはめずらしく、すべてが石造りでした。今は神谷川の川幅が広がったので、鉄筋コンクリート製になっています。

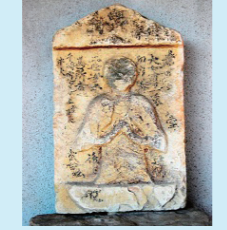
行った日



だいにちよろいせきぶつ 大日如来石仏(大日堂)

細野地蔵堂に寛文13年(1673)にできた大日如来像があります。姫路城の殿さま松平直矩の妻である宮内氏が寄付したと伝えられています。供養塔は宝暦6年(1756)につくられました。

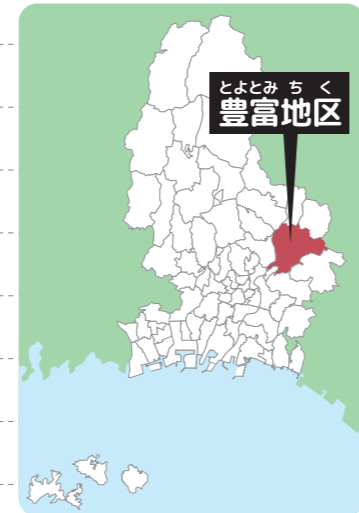
行った日



にすきじんじゃ 新次神社の伊部狛犬

新次神社の伊部狛犬は、奈良時代から焼物をつくっていた備前の伊部地方で、江戸時代の後半の文政年間(1818~30)につくられたものです。姫路では曾坂の新次神社、林田町下伊勢の柳神社にそれぞれ一組あるだけです。

行った日



とよとみちく
豊富地区



とよとみちく 56 豊富地区

調べたこと、
分かったことを
書いてみよう!



豊富地区は、奈良時代に書かれた『播磨国風土記』に「蔭山里」として出てきます。そこから「豊富町御蔭」という地名になったのでしょう。他にも『播磨国風土記』にちなんだ地名があるのが調べてみましょう。



- 遺跡・史跡、歴史上の名所
- 神社・仏閣、歴史的建造物
- 歴史上の人物など
- 祭り
- 伝統行事
- 美術品

- 伝統芸能など
- 景勝
- 生物・花
- 町並み
- etc その他

0m 500m 1km

行った日



ふくりんじせきぞうじぞうはんかぞう 福林寺石造地藏半跏像

左足を下ろし、右足を左足の太ももに乗せた姿のお地藏さまです。立派な体つきで衣のひだが力強く彫られていて、素朴ですが優れた作品です。中には、「元亨3年(1323)」と彫られていて、市内では数少ない鎌倉時代後半に石でつくられたものです。市の文化財に指定されています。

ふとおじょう 太尾城

『播磨鑑』という本に、お城の殿さまは太尾兵庫頭與次で、天正年間に戦で敵に攻め落とされたと書かれています。また『赤松家播磨備前城記』という本には、文明元年(1469)、後藤基信が住み、5代続いた後に敵に攻め落とされたと書かれています。高さ132.5mの山の上に東西に長く平らな場所があり、これがお城の跡だと思われま。

行った日



もくぞうひしゃもんでんりゅうぞう 木像毘沙門天立像(岩屋寺)

12世紀前半ごろの藤原時代につくられたと考えられています。市内に残る毘沙門天像の中では、増位山随願寺のものと同じくらい優秀な作品です。国の重要文化財に指定されています。

行った日



やけどどう 焚堂

『太平記』という本に出てくる話では、圓通寺の裏にあるお堂は、高師直に追われた塩冶高貞の妻が自害した場所だといわれています。焼けたお堂のあとに、文政2年(1819)に「蔭山焚堂早田妙応夫人」の碑が建てられました。

行った日



よこやまこふん 横山古墳(県指定史跡)

昭和40年(1965)の発掘調査によると、一号墳は、直径21m、高さ2.3mの円墳で、竪穴式石室と考えられています。二号墳は、一号墳の東にあり、直径18.6m、高さ5.5mの円墳です。中に二つの組み合わせ式箱形石棺があることが確認されています。

行った日

